

# バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第138号 [2016年8月]

## さあ、湖の向こう岸に渡ろう

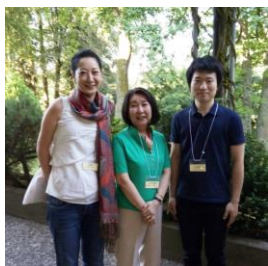
ルカによる福音書 8章22節

『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・＋・・・

主の聖名を賛美します。バルセロナ日本語で聖書を読む会の月報第138号をお送りします。

今月は月例集会は持ちませんでしたが、当集会から二人のメンバーが南ドイツで開催された『第33回 ヨーロッパ・キリスト者の集い』に参加して、とても祝福され、有意義なひと時を過ごしてきました。今回の集いの主催はスイス日本語福音キリスト教会。通常2年で準備されるこの企画を1年でまとめ、素晴らしいコーディネートをされた点は本当に団結力と行動力の強いスイスの皆様のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。こちらに、恵まれて帰ってきた参加者からの感想をご紹介します。



去年に引き続き今年も7月28日から31日までドイツのザーベルシュタインで行われたヨーロッパキリスト教者の集いに参加することができました。集いが行われた場所は森に囲まれたとても静かなところ。そこで神様と、そして信仰の兄弟姉妹と、短くはありましたが素晴らしい時間でした。この神様の恵みに心から感謝しています。  
武部 智子

私はこの7月の集いに行くことを決めた4ヶ月前から、集いに行くことを心から楽しみにしていました。去年初めて参加したプラハの集いで非常に感銘を受けたので、今年も期待していました。その期待通り、今年の集いもまた祝福が多いものでヨーロッパ各地に住む日本人クリスチャンと素晴らしいひと時を過ごす事ができました。

私は集いに行く前々から今年のテーマ「御国を待ち望む」の意味を考えていましたが、まだ聖書朗読が浅いせいかその意味がよくわかっていませんでした。イメージとして持っていたのは、クリスチャンには御国という抽象的なものが存在し、それは天にあって、死後、その御国に私たちはいけるんだということです。しかしそういうものではなく、御国というのは上からこの地球に来るものだと教えられました。つまりイメージとしては、上から下に降りてくるということです。そしてキリストを信じる私たちは、それがパスポートのようなものになって、その御国に入れるということです。もっと極端なことを言えば、死ぬ直前に「神を信じます」と言えばその御国に入ることができるということです。とにかく私たちクリスチャンはこの世でもいつも神様がそばにいてくれるのでどんなに心強いことか、もっと早くクリスチャンになればよかったという声も多々聞きました。

地震、津波、テロなど色々な災害、事故で若くして命を落とした人もけして不幸なのではない、死がゴールではない、死後、御国があるのだから私たちのゴールは向こうにあるんです。時々私たち降りかかる小さな災難はもしかしたら神が私たちに振り向いてもらいたくしている行動なのかもしれないと聞き、はっとしました。

またスモールグループでは年齢も国籍もクリスチャン歴も異なる6人で、「御国を待ち望む」をテーマに活発な意見交換を行い、さらに掘り下げて聖書を読み込み、自分の視野を広げ知識を深めてくれ、意義深いものでした。

ヨーロッパにこんなにも信仰深い仲間が沢山いるということは私を元気づけてくれます。特に日頃6、7人の家庭集会で小さいながらも賛美、バイブルスタディーをしている私は、この集いでこんなに多くの真摯で熱心なクリスチャンと賛美を共に捧げた時は感動して鳥肌が立ちました。この素晴らしい貴重な出会いと、またその地へ行くことを可能にしてくれた天のお父様に感謝し、これからも精霊の働き、主の愛を感じながら神様と共に歩んでいきたいと思えます。(美沙)

